

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0491500021
法人名	大崎市社会福祉協議会鹿島台支所
事業所名	認知症グループホーム 和楽路
所在地 (電話番号)	大崎市鹿島台広長字尻掛杉ヶ崎7-1-1 (電 話) 0229-57-1525
評価機関名	特定非営利活動法人介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 20 年 2 月 22 日

【情報提供票より】(平成 20 年 1 月 31 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	7.5 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	木造	造り
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	13,000 円	
敷 金	有(円)	○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/○無	
食材料費	朝食	170 円	昼食	310 円
	夕食	320 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	1 名	要介護4	3 名		
要介護5	3 名	要支援2			
年齢	平均 85.3 歳	最低	69 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大崎市民病院鹿島台分院、駅東歯科クリニック
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

眺望の良い高台にあり、ホームには珍しく小さい田圃がある。田植えから稲刈りまで行い、米は食卓に供される。稲藁でしめ縄を作り、正月の飾りやどんと祭に活用されている。畑では白菜等が収穫され、昼食の豚汁に使用されていた。3ヶ月毎に家族報告会を開き、家族との交流を図り意見や要望等を聞いている。入院のないケアを目指し、ユニットの増設や通所介護を検討している。職員の異動を最小限にしてリロケーション・ダメージを防ぐ(不安な思いをさせない)ことと、重度化や終末期の介護の方針を文書化し納得のうえ、入居者等のホームで人生を全うしたいとの想いに応えようと検討しているの期待したい。町内会や消防団との相互応援や地域でお茶会を開き、地域の人々との交流を積極的に図っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回要改善点は特になし。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価表をスタッフ全員に配布し記入してもらい、管理者がまとめた。職員の評価に対する意識が高まり、職員の気づきが見られ、家族や訪問客に対する接客等に生かされ、介護の質の向上に役立っている。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進委員は民生委員、包括支援センターの職員、入居者の代表、家族の代表、職員4名の合計8名で構成され、2ヶ月に1回開催されている。会議は地域のお茶会やホームの夏祭り、防災訓練等双方向に進められ、地域の人々との交流やホームのケアの向上に活かされている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族報告会を3ヶ月ごとに開催して、家族等の意見や要望、苦情等を聞いて運営に反映させている。家族との連携強化のため、家族報告会のほかに入居者の誕生会やホームの演芸会、新年会や忘年会等ホームの行事にも参加するようにしていきたいと検討を重ねている。苦情等は全職員に周知し、再発の防止に努めている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し地域の老人クラブや独り暮らしの方との交流を積極的に行うため、お茶会を開き、そば打ちやコースター作り等をして喜ばれている。チラン配り等を地域の区長や民生委員等が協力し、住民に周知させている。家族や関心のあるボランティア、介護研修センターの実習研修等を受け入れている。大崎市主催の敬老会には家族等も参加し、地域のコンサートや映画会等にも参加している。町内会や消防団との非常時の相互応援を行って災害に備えている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域で継続した生活の維持を支援している。選挙の投票やにぎやかな互市など日中の活動は外部に求め生活圏を拡大し、地域の人との関係を広げ、地域の中で生活することを理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議等で理念を確認し合い共有している。ホームの方針や目標は事務所に表示し職員が確認しやすくしている。認知症の介護など統一事項はホーム会議で話し合い、ケアの質の向上に活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会して年4回お茶会を開き、そば打ちなどで地域の独り暮らしの方や老人クラブとの交流を図っている。ボランティアや実習研修などを受け入れ、町内会や消防団との非常時の相互応援等を行っている。市の敬老会や地域のコンサート、映画会等にも参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員に自己評価表を配布し記載してもらい、管理者がまとめ作成した。マンネリ化を防ぎ、家族や来客への対応など職員の気づきが見られ、介護の質の向上に役立っている。外部評価の各項目を意識しながら運営に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議規定を作成し、2ヶ月毎に開催している。委員は家族、入居者、包括支援センター、地域代表、民生委員、職員等9名で構成。お茶会や夏祭り、防災訓練等を議題として双方向的に運営されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の看護師に巡回指導を受けたり、地域のお茶会に支所や公民館、記念ホール等から、鉄板や抹茶茶碗、もうせん等を借りたりして連携している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回家族報告会を開き、意見や要望等を聞いている。ホーム便りを3ヶ月に1回発行。毎月生活の様子や事業報告、健康状態等を報告している。来訪時に出納帳を確認の上押印してもらっている。職員の異動は手紙や会報等で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3ヶ月に1回家族報告会を開き、要望や意見を聞き運営に反映させている。面会時や電話等で苦情等の相談を受け、職員に周知し、再発防止に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職は1ヶ月前に申請してもらい、入居者に報告・引継ぎし、継続したケアを行っている。手紙や会報等で家族等にも報告している。しかし、職員の異動が多く馴染みの関係ができるまで、話し合いが少なく指摘を受けている。	○	ホームの事情もあり大変ではあるが、設立の思いを失うことなく、馴染みの人間関係を薄めないように職員の異動を最小限にして、リロケーション・ダメージを防ぐ(不安な思いをさせない)ように工夫をして頂きたい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任研修は採用後1ヶ月以内に、継続研修は随時行っている。受講後は報告書で職員全員に周知して、ケアの質の向上に活かしている。自己管理ノートで1年間の目標の達成に向け取り組み、職員と組織の成長や改善を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入会して、他のホームと「相互評価」をしたり、研修に参加して交流を深め、飾り付けや接し方などを学び、報告書を全職員で共有してケアの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新しい入居者はケアプランに基づき、2週間は暫定プランで排泄や就寝などの生活の様子を記録しながら、入居者にあった関わり方で支援している。病院などの大部屋からホームの個室に変わるので戸惑いもあり、さりげないケアで安心して生活できるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の準備時に料理等の場面作りをしながら、入居者から食材の切り方や味付け、盛り付けなど職員が教えてもらうような関係作りを行い、介護される一方の立場に置かないように工夫している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	買物で品物を選び代金を支払うなど、入居者がひとりでできるよう支援している。お茶の時間に何を飲みたいか希望を聞き、入居者の思いや希望に応じている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の言葉や、家族の訪問時、家族報告会等で意見や要望を聞き介護計画に活かしている。毎月ホーム会議で職員の意見を聞き、入居者や家族等と話し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に介護計画の見直しを行い、変化のある時は随時見直しを行っている。見直しの前にカンファレンスを行い、職員で話し合い介護計画の見直しを行なっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者のその日の要望にあわせ、実現できるように支援している。かかりつけ医等の通院介助を支援している。地域のニーズに応えられるように通所介護やユニットの増設など多機能化を検討している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	市民病院鹿島台分院や歯科と提携。家族や医師と相談し治療の検査時に基本健診を行っている。希望のかかりつけ医の通院介助等も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者が重度化しているので終末期のケアを医師や家族、職員等と話し合い、連携しながら行っていく予定である。しかし、状態に変化が伴うので、終末期ケアの方針の文書化をホームでは躊躇している。	○	ホームで人生を全うしたいという入居者や家族等の思いをぜひ実現していただきたい。重度化や終末期のホームの介護方針を文書化し、入居者や家族等と話し合い納得の上行うようにして頂きたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人格を尊重し、トイレの誘導など何気ない介助でプライバシーを損ねるような言葉掛けをしないように耳元で声がけし、他者に洩れないように配慮している。介護記録等の置き場所には鍵を掛けている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活歴や習慣・経験などを生かし、入居者ペースの生活ができるよう支援している。入居しても病室にいるイメージの人には、ヨーグルトなどを居室に持参してさりげなく見守っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も同じ食卓に着き、食事をしながらさりげなくサポートしている。食事作りや食後の茶碗洗い、茶碗拭き等は役割を分担し、食事の際には料理を話題にしながらか楽しく食べるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者は希望時間に入浴でき、夜間浴を夜8時まで行い、気持ちよく就床してもらおうので入浴拒否者はいない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者のできることや調理手伝い、茶碗洗い、洗濯物たたみなど見守って支援している。入居者が出かけた際には外出するようにしたり、食事を手伝い時には気軽にできるように支援している。入居者と玄関や和室に生花を生けて季節感を漂わせている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物する場合、入居者が品物の選択や支払いができるように支援している。遠距離には支所のバスの応援をもらい、入居者が外に出たい時には職員が付き添い支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出傾向者にはその都度対処している。町内会に加入しているので、近隣の協力で見守り等をお願いしている。夜間以外は玄関に鍵を掛けてはいない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害マニュアルを作り、年3回防災訓練を地域の協力でやり、夜間を想定した訓練も行っている。地域のボランティアや民生委員等と応援体制がとれている。ベランダから誘導し全員5分で避難ができる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同一法人の敬風園の管理栄養士による献立チェックでカロリーや栄養のバランスのとれた食事を提供している。水分の摂取量も把握している。希望により常食や粥食、刻み食等も支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や台所は家庭的な雰囲気に包まれている。廊下や居間には季節感のある装飾があり、小上がりの和室にはひな人形が飾られ、生花が生けられて一足早い春を漂わせている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は馴染みの家具や思い出の写真、手作りの作品等を飾り、その人らしい部屋作りをしている。家族と話し合い協力をもらいながら、居室をわが家のように居心地よくしている。		